

芦屋市指定文化財（八十塚古墳群出土双龍環頭大刀）について

1 指定区分

芦屋市指定有形文化財

2 指定年月日

平成29年3月17日

3 名称（よみ）

八十塚古墳群出土双龍環頭大刀

（やそづかこふんぐんしゅつどそうりゅうかんとうたち）

4 員 数

一口

5 所有者

芦屋市

6 収蔵施設

芦屋市立美術博物館（芦屋市伊勢町12番25号）

7 年 代

古墳時代後期（6世紀後半）

8 概 要

本資料は、平成24年度に発掘調査を実施した、八十塚古墳群岩ヶ平支群第61号墳の横穴式石室から出土したもので、柄頭1点・刀身2片・鞘金具3片・責金具1片・鞘木質部2片からなる。各詳細は次のとおりである。

(1) 柄頭（つかがしら）1点

- ・縦15.1cm 横8.2cm 重量350g
- ・金銅装銅芯鍍金の鍛造品で、本来は横方向に長い楕円形であるが、側方から強い力が加わったことによって大きく変形している。環内の飾りは、二匹の龍が向き合って中央の玉を取り合う双龍争玉の姿であったと考えられる。

- (2) 刀身（とうしん） 2 片
- ・ 残存長 35.9 cm 残存幅 3.5 cm 厚さ 1.7 cm
 - ・ 残存長 12.9 cm 残存幅 2.9 cm 厚さ 1.0 cm
 - ・ 鉄製である。
- (3) 鞘金具（さやかなぐ） 3 片
- ・ 各最大長 1.1 cm 1.6 cm 3.9 cm
 - ・ 金銅装。鞘本体から剥落したものある。
- (4) 責金具（せめかなぐ） 1 片
- ・ 残存長 2.1 cm 残存幅 0.9 cm
 - ・ 金銅装で、細かな細刻文が緻密に施されている。
- (5) 鞘木質部（さやもくしつぶ） 2 片
- ・ 残存長 6.3 cm 残存幅 2.7 cm 厚さ 0.3 cm
 - ・ 残存長 4.1 cm 残存幅 1.4 cm 厚さ 0.4 cm
 - ・ 木製の鞘本体の残片である。

古墳時代の環頭大刀は、ヤマト政権より各地の有力者に配布されたとする説が有力である。また、現在、全国的に確認できる環頭大刀の数は 90 例前後と、貴重な資料である。このため、本資料は、古代芦屋地域の政治的位置付けや、八十塚古墳群の築造集団や被葬者像を解明する上で重要なものであり、学術的価値の高いものである。

以 上



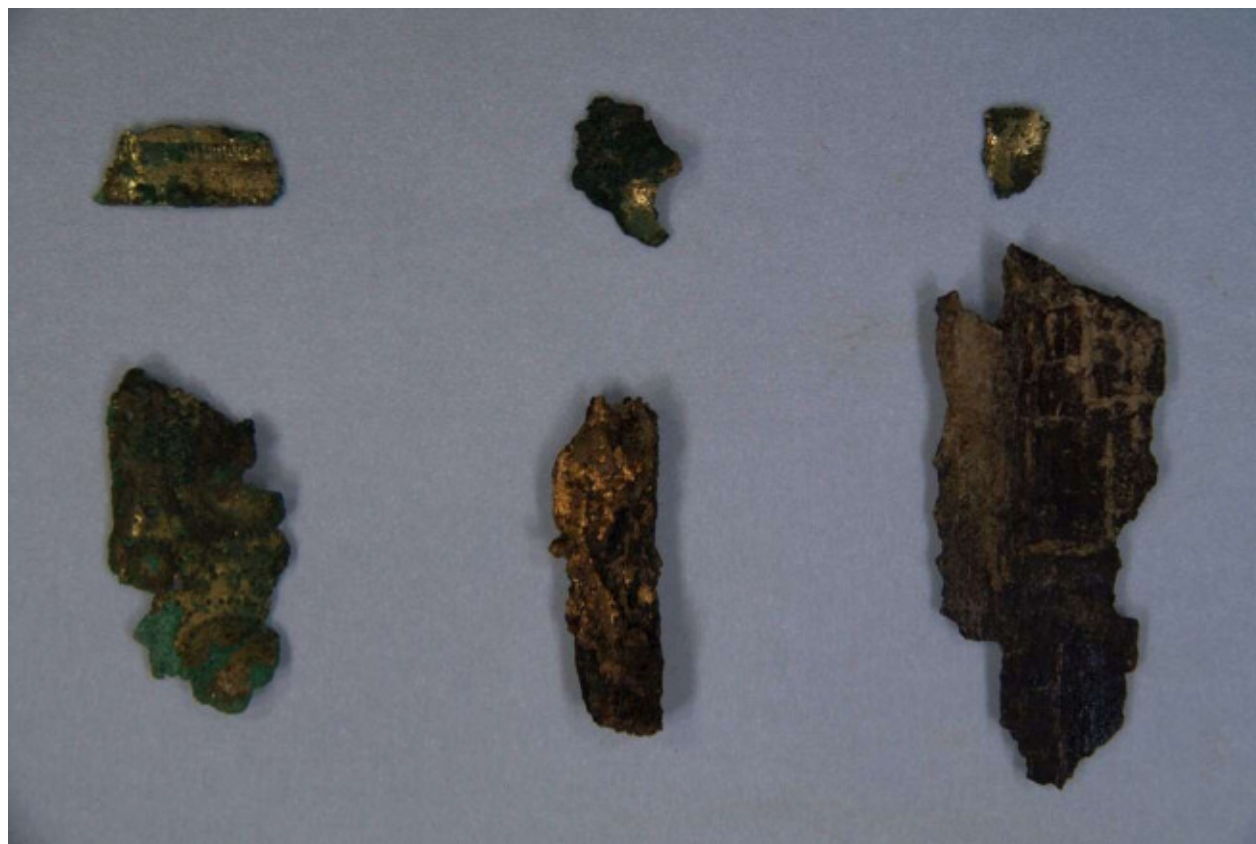
柄頭（表面）



柄頭（裏面）



刀身



鞘金具等